

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	
平成19年4月5日入学式学長式辞	2
平成19年度入学者数	2
平成18年度医学博士授与者（後期）	3
○ 人 事	
役員・経営審議会委員・教育研究審議会委員・企画室員・評価室員・ 知的財産管理活用オフィス室員・危機管理室員・監査室員・名誉教授・ 教授・准教授・講師・事務局職員	5
新任あいさつ	6
・理事（管理運営担当）兼事務局長 野崎 洋一	
・医学部 生化学講座 教授 橋本 康弘	
・医学部 内科学第二講座 教授 大平 弘正	
・医学部 神経内科学講座 教授 宇川 義一	
・医学部 小児科学講座 教授 細矢 光亮	
・医学部 皮膚科学講座 教授 山本 俊幸	
・看護学部 基礎看護学部門 教授 横田 素美	
・看護学部 家族看護学部門 教授 太田 操	
・看護学部 ケアシステム開発部門 教授 黒田 真理子	
○ 諸 規 程 改 正	
平成19年2月から5月までの諸規程の制定改廃関係	9
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	
役員会	11
経営審議会	11
教育研究審議会	11
医学部教授会	11
看護学部教授会	12
○ 雑 報	
倫理委員会	12

学 事

■ 平成19年4月5日 福島県立医科大学 入学式

学長式辞

福島県立医科大学長 高地 英夫

本日ここに、福島県知事様、福島県議会議長様のご臨席と保護者の皆様のご列席のもと、平成19年度福島県立医科大学入学式を挙げてまいりましたことは、本学にとってこの上ない喜びであります。ただいま入学を許可された医学部80名、看護学部90名、また、大学院医学研究科30名、看護学研究科8名の皆さん、誠にありがとうございます。今、皆さんは念願であった本学への入学が叶い、これから医学あるいは看護学への道に進む喜びを、強く実感していることと思います。福島県立医科大学は、設立基盤となった福島県立女子医学専門学校が昭和19年に創立されて以来、60有余年の歴史をもっております。しかし、本学建学の精神はさらに遡り、後藤新平も学んだ明治初期の須賀川医学校に辿りつくことができます。皆さんはこのような伝統ある本学に学ぶことに、自信と誇りを持ってこれからの道を歩んでいただきたいと思っております。

医学部、看護学部に入学者の皆さんがこれから学ぼうとする医学・看護学は、病を防ぎ、癒し、そして健康に過ごしたいという、人間の根源的な願望に応えようとする学問であり、その実践が保健・医療・福祉です。将来、皆さんが医療職者として、保健医療の現場で向かい合う相手は、病に悩み苦しむ一人の人間であり、その全人格です。ですから、医療に携わる者は、知識や技術を駆使できる医療職者である前に、人を思い遣る心に満ち、かつ人に信頼されるだけの教養や倫理観を備えた良識人でなければなりません。本学が掲げる3つの理念の最初は「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する」ことであります。皆さんは学生生活の中で、専門とする医学・看護学を学ぶことは勿論のこと、広く教養と学識を身につけ、さらにクラブ活動や学内外の人との交流を通して自らを磨き、円満な人格と優れた倫理観を備えた医療人になれるよう努めてください。

皆さんは、これから6年間あるいは4年間にわたり、専門医療職者に必要な多くの知識・技術を身につけてゆくこととなります。しかし、その基盤である医学・看護学は常に進歩し続けています。ですから、医学・看護学の道を選択した皆さんは今後、生涯にわたって常に学ぶ心構えが必要です。本学の理念の第二には「最新かつ高度な医学および看護学を研究・創造する」と謳われています。事象を客観的に観察して問題点を見出し、論理的に解決しようとす

る科学者としての見方と考え方を、学生の間で修得するよう努めてください。

本学は、昨年度から公立大学法人となりましたが、福島県が設置者であることに変わりはありません。従って、地域にどのように貢献できるかは大学にとって重要な課題であると同時に、医療の基本でもあります。本学の理念の第三には、「県民の基幹施設として全人的・統合的な医療を提供する」と掲げられています。本学を基点とする全人的・統合的な医療が県内にあまねく実現できるよう努めることは、本学の特色ある理念でもあります。皆さんは入学後に地域医療に接する機会があると思いますが、学生の中に地域の保健・医療への関心と理解を深め、将来、医療人として活躍するときの糧としてくださるよう希望します。

さて、大学院に入学された38名の皆さん。皆さんは医学や看護学の理論・応用の研究を深め、医学・看護学のさらなる進歩・発展に寄与する志をもって入学されました。今日のような高度化、多様化、複合化した保健医療に対応し、継続して向上を図るためには、医学・看護学の深奥を極める研究の推進が欠かせません。大学院は、医学・看護学の研究者あるいは研究能力を備えた医療職者を養成するものであり、理念の第二に挙げた「最新かつ高度な医学および看護学を研究・創造する」ための基盤でもあります。どうぞ大学院生活の研鑽を通して、優れた探求能力と創造性を備えた医療職者となられますよう願っています。

最後になりますが、本学のこの自然と施設に恵まれた環境のもと、皆さんが充実した学生生活を送られ、大きく成長されることを願って式辞といたします。

■ 平成19年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生 80名

	男	女	計
県内	35名	9名	44名
県外	22名	14名	36名
計	57名	23名	80名

② 看護学部新入生 90名（うち3年次編入生6名）

※（編入生）は外数

	男（編入生）	女（編入生）	計（編入生）
県内	4名（0名）	62名（4名）	66名（4名）
県外	0名（0名）	18名（2名）	18名（2名）
計	4名（0名）	80名（6名）	84名（6名）

③ 大学院新入生 38名

	男	女	計
医学研究科	23名	7名	30名
看護学研究科	3名	5名	8名
計	26名	12名	38名

医学研究科	
地域医療・加齢医学専攻	7名
機能制御医学専攻	9名
精神医学専攻	8名
分子病態医学専攻	6名
看護学研究科	
がん看護学領域	2名
精神看護学領域	3名
小児看護学領域	2名
地域看護学領域	1名

■ 平成18年度医学博士授与者（後期）

〔平成19年3月授与〕

氏 名 学 位 論 文 名

渡邊 俊樹	Three-Dimensional Quantification of Cardiac Surface Motion: A newly developed 3-Dimensional Digital Motion-Capture and Reconstruction System for Beating Heart Surgery (心表面冠動脈運動の定量的解析：心表面運動3次元デジタル解析システムの開発)
立原 久義	Does facet joint inflammation induce radiculopathy? An investigation using a rat model of lumbar facet joint inflammation (椎間関節の炎症は神経根障害を惹起するか？—ラット腰椎椎間関節炎モデルによる検討—)
高橋 百恵	Cloning and Characterization of Mannose-Binding Lectin from Lamprey (Agnathans) (ヤツメウナギ マンノース結合レクチンのクローニングとその解析)
米田 実	Differential Effects of Angiotensin II Type-1 Receptor Antisense Oligonucleotides on Renal Function in Spontaneously Hypertensive Rats (自然高血圧発症ラットにおける腎アンジオテンシンII Type-1受容体の役割：AT1受容体アンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた検討)
渡邊 和之	Increase of 200kD-Neurofilament Immunoreactive Afferents in the Substantia Gelatinosa in Allodynic Rats Induced by Compression of the Dorsal Root Ganglion (腰部後根神経節の圧迫によってアロディニアを発症したラットの脊髄膠様質における200kDニューロフィラメント陽性線維の増

横川 博英	加) Evaluation of atherosclerosis-associated factors and pulse wave velocity for predicting cerebral infarction: a hospital-based, case-control study in Japan (脳梗塞の予知に関する動脈硬化関連因子および脈波伝播速度の検討—日本の1病院における症例対照研究—)
吉田 敦子	Evaluation of cerebral perfusion in patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus using ¹²³ I-IMP SPECT (中枢神経症状を呈した全身性エリテマトーデス患者における ¹²³ I-IMP SPECTを用いた脳血流の評価)
高山 智子	体外胚発生に与える精子核DNA—蛋白複合体の影響
左雨 元樹	P-gp/MDR1発現の日内リズムの検討
大島 謙吾	Enhanced Expression of Redox Related Selenoprotein P in The Lung Fibroblast from The Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis (特発性肺線維症患者肺線維芽細胞における酸化還元関連セレノプロテインPの発現増強)
山口 日吉	Body Mass Index is an Important Risk Factor for Developing Type 2 Diabetes (BMI値は、2型糖尿病新規発症の重要な危険因子である)
箱崎 道之	Etodolac, a selective cyclooxygenase-2 inhibitor, induces apoptosis by activating caspases in newly established human sarcoma cells (新たに樹立したヒト肉腫細胞株における選択的cyclooxygenase-2阻害剤etodolacの抗腫瘍効果の検討)
櫻井 薫	Dietary Perilla-Seed Oil Supplement Increases Plasma omega-3 Polyunsaturated Fatty Acids and Ameliorates IgA Nephropathy in HIGA Mice (エゴマ油摂取がHIGAマウスにおけるIgA腎症を抑制する効果についての検討)
坂本 夏美	Association between Behcet's disease and TLR9 gene polymorphisms in Japanese (日本人におけるベーチェット病とTLR9遺伝子多型との関連の検討)
高山 文治	Gene expression changes in dorsal root ganglion of rat experimental lumbar disc herniation models (腰椎椎間板ヘルニアモデルラットの後根神経節における遺伝子発現変化)

小倉 豪	Establishment of highly metastatic cell line (Lu10) from murine mammary carcinoma cell line MCH66 and biological characteristics of Lu10 (マウス乳癌細胞株 MCH66からの高転移性細胞株 Lu10の樹立とその生物学的特性)	田島 浩子	脳性利尿ペプチドの比較) Mast Cells are not Involved in Natural Increase in Resting Blood Flow of Ischemic Limbs but Contribute to Therapeutic flow Restoration of Bone Marrow Cell Transplantation in Rat (骨髄細胞移植による血管新生療法における肥満細胞の係わりに関する基礎的研究)
添田 周	Correlation of tumor-associated macrophages and tumor-infiltrating lymphocytes with clinicopathological factors in endometrial carcinoma (子宮体癌における腫瘍関連マクロファージと、殺細胞性リンパ球浸潤の病理組織学因子との関係)	神山 美之	Attenuation of angiotensin II-mediated reactive oxygen species generation via carbon monoxide from heme oxygenase-1 in macrophages (マクロファージにおいてヘムオキシゲナーゼ 1 から産生された一酸化炭素はアンジオテンシン II による活性酸素種の発生を抑制する)
佐藤 栄需	Sodium azide induces necrotic cell death in rat squamous cell carcinoma SCC131 (アジ化ナトリウムに誘発されるラット扁平上皮癌細胞株 SCC131の細胞死に関する検討)	大竹 秀樹	Influence of autonomic nervous system on incidence of atrial fibrillation in diabetic heart (糖尿病ラット心における心房細動誘発に対する自律神経系の影響)
高橋 則雄	ラット閉塞膀胱における Rho-kinase の発現亢進と病態への関与	阿久津和子	Abnormalities of natural and adaptive T regulatory cells in immune modulations of bone marrow failure syndromes (骨髄不全症候群での免疫調節における天然型及び誘導型制御性 T 細胞の役割)
千葉 良文	Reduced vasoconstrictive capacity in non-working forearm muscle during exercise in patients with mild chronic heart failure (軽症慢性心不全患者運動時の非作業前腕骨格筋の血管収縮反応の減弱)	及川 雅啓	Attenuation of cardioprotective effect by postconditioning in coronary stenosed rat heart and its restoration by carvedilol (冠狭窄ラット心では、ポストコンディショニングによる心保護効果が減弱するが、カルベジロール投与によりその効果が回復する)
柴野 健	The effects of acetazolamide on the skeletal muscle sodium channel (骨格筋 Na ⁺ チャンネルに対するアセタゾラミドの作用)	市川 剛	Surgery for cerebral arteriovenous malformation using motor evoked potential (脳動静脈奇形の手術における Motor evoked potential の利用)
小野木 太	Antioxidant is a Useful supportive Agent for the Treatment of Coronary Vasospasm with Endothelial dysfunction in Pig (抗酸化剤は、冠動脈内皮障害を伴う豚冠攣縮モデルにおいて冠攣縮の抑制に有効な薬剤である)	片山 規央	Activation of medial prefrontal cortex neurons by phencyclidine is mediated via AMPA/kainate glutamate receptors (フェンサイクリジンによる前頭前皮質ニューロンの活性化は AMPA/kainate グルタミン酸受容体を介している)
王 慧	Suppressive effect of acupuncture stimulation to the sacral segment on the state of vigilance and the brainstem cholinergic neurons (仙髄への鍼刺激が覚醒状態および脳幹のアセチルコリン作動性ニューロンに及ぼす抑制効果について)	後藤真理亜	ヒト単球由来 THP-1 細胞の ATP 受容体を介する Ca ²⁺ 応答におよぼすプロスタグランジン E ₂ の作用
渡部 朋幸	Optimal Noninvasive Assessment of Diastolic Heart Failure in Patients with Atrial Fibrillation: Comparison of Tissue Doppler Echocardiography, Left Atrium Size, and Brain Natriuretic Peptide (心房細動患者における拡張不全の最適な非侵襲的評価法：組織ドプラー法、左房サイズ、	佐久間 裕	INITIAL FUNCTIONAL STATUS PREDICTS INFECTIONS DURING STEROID THERAPY FOR RENAL DISEASES (入院時の身体活動は腎疾患に対するステロ

イド治療において感染症発症の予測因子である)
 山本 豪 Synthetic oligodeoxynucleotides induce gastritis in mice
 (合成オリゴ DNA によるマウス胃炎の誘導)
 齊藤 広幸 Methylated CpG Oligodeoxynucleotide in Guanine Residue (CpmG) Ameliorates TNBS-induced Colitis in Mice
 (グアニンがメチル化された CpG オリゴ DNA (CpmG) の投与によるマウス TNBS 腸炎への影響の検討)
 三宅 将生 Morphological alteration of the kidney in neonatal rats after 16-day spaceflight
 (16日間の宇宙飛行後における幼若ラット腎臓での形態的变化)

19.4.1 室員 鈴木 賢司
 (学術情報グループ参事)
 ◎新任監査室員
 19.4.1 室員 酒井 史郎
 (総務グループ主任主査)
 ◎名誉教授
 19.4.1 丸山 幸夫
 19.4.1 児玉南海雄
 ◎新任教授
 採用 19.4.1 医学部生化学講座 教授 橋本 康弘
 採用 19.5.1 医学部神経内科学講座 教授 宇川 義一
 採用 19.3.1 医学部皮膚科学講座 教授 山本 俊幸
 発令 19.5.1 医学部内科学第二講座 教授 大平 弘正
 発令 19.3.1 医学部小児科学講座 教授 細矢 光亮
 採用 19.4.1 看護学部基礎看護学部門 教授 横田 素美
 昇任 19.4.1 看護学部家族看護学部門 教授 太田 操
 昇任 19.4.1 看護学部ケアシステム開発部門 教授 黒田眞理子

人 事

◎新任役員

19.4.1 理事(管理運営担当) 野崎 洋一

◎新任経営審議会委員

19.4.1 委員 野崎 洋一
 (理事)

◎新任教育研究審議会委員

19.4.1 委員 野崎 洋一
 (理事)

19.5.14 委員 結城美智子
 (看護学部教授)

◎新任企画室員

19.4.1 室員 鈴木登三雄
 (事務局次長)

◎新任評価室員

19.4.1 室員 関根 宏幸
 (企画グループ参事)

◎新任知的財産管理活用オフィス室員

19.4.1 室員 鈴木登三雄
 (事務局次長)

◎新任危機管理室員

19.4.1 室長 野崎 洋一
 (理事)

19.4.1 室員 鈴木登三雄
 (事務局次長)

19.4.1 室員 関根 宏幸
 (企画グループ参事)

19.4.1 室員 関根 俊一
 (学務グループ参事)

◎新任准教授

昇任 19.6.1 医学部内科学第二講座 准教授 入澤 篤志
 採用 19.4.1 看護学部家族看護学部門 准教授 畠山とも子
 採用 19.4.1 附属病院歯科口腔外科 准教授 長谷川 博
 発令 19.4.1 附属病院リハビリテーションセンター 准教授 矢吹 省司

◎新任講師

採用 19.4.1 医学部解剖・組織学講座 講師 亀高 諭
 採用 19.5.1 医学部生化学講座 講師 奈良 清光
 採用 19.4.1 医学部衛生学・予防医学講座 講師 早川 岳人
 昇任 19.4.1 医学部病理学第二講座 講師 杉野 隆
 昇任 19.4.1 医学部衛生学・予防医学講座 講師 神田 秀幸
 昇任 19.6.1 医学部内科学第二講座 講師 小林 浩子
 昇任 19.4.1 医学部外科学第一講座 講師 星野 豊
 昇任 19.5.1 医学部脳神経外科学講座 講師 佐久間 潤
 昇任 19.4.1 医学部整形外科学講座 講師 宍戸 裕章
 昇任 19.6.1 医学部皮膚科学講座 講師 西部 明子
 昇任 19.4.1 附属病院総合周産期母子医療センター 講師 桃井 伸緒
 発令 19.4.1 附属病院集中治療部 講師 中根 正樹

◎新任事務局職員

転入 19.4.1 事務局長 野崎 洋一
 転入 19.4.1 事務局次長 鈴木登三雄
 転入 19.4.1 企画グループ参事 関根 宏幸
 転入 19.4.1 学務グループ参事 関根 俊一
 転入 19.4.1 学術情報グループ参事 鈴木 賢司
 転入 19.4.1 医事グループ主幹 酒井 英資

■ 新任あいさつ



理事就任ごあいさつ

理事（管理運営担当）
兼事務局長 野崎 洋一

4月2日に着任してから毎朝バスで医大まで通勤しています。医大の周辺がこんなに桜の木に囲まれているとはこれまで全く知りませんでした。特に医大敷地の北側斜面の桜は本当に見事です。毎朝、通勤バスの車窓からそのすばらしい眺めに見とれていました。

4月も下旬になると医大構内の樹木が一斉に芽吹き、淡い緑色で覆われました。光が丘の新キャンパス建設の際に植えられた樹木も今はすっかりこの地に根付き、学生や教職員はもちろん、附属病院に来られる患者さんたちの目を和ませてくれます。

さて、福島市杉妻町の旧医大から光が丘に移転してから20年近くが過ぎ緑豊かなキャンパスとなった本学は、昨年4月1日、公立大学法人として新たなスタートを切りました。十分な準備期間もなく厳しいスケジュールの中で、法人への移行作業は苦労の連続でしたが、教職員の皆様のご努力の結果、何とか法人化にこぎ着けたと聞いています。

法人化から1年が過ぎ独立行政法人として着々と成果を上げつつある本学ですが、準備の段階では想定できなかった様々な問題や課題が見えてきたのも事実です。今後は、法人化して本当に良かったと教職員を始め学生の皆さんが思えるように、更には県民の皆様からも喜んで頂けるよう事務局職員一丸となって取り組んで参りたいと考えております。どうぞご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。



教授就任ごあいさつ

医学部 生化学講座
教授 橋本 康弘

私は本学を1979年に卒業し、そののち長らく研究生活を送って参りました。本学への着任のご挨拶を述べるにあたり、過去の研究歴について振り返ってみたいと思います。

私は大学を終えたのち臨床の経験を積むことなく直接基礎医学系の大学院に進学し、研究生活を始めました。指導をして頂いたのは、東京大学大学院・医学部・生化学教室の山川民夫先生です。山川先生は「糖脂質」という糖鎖が結合した脂質成分が細胞膜の成分として普遍的に存在することや、赤血球の糖脂質画分に ABO 血液型活性が存在す

ることを発見した、この研究領域の世界的な権威です。私は、山川先生の下で糖脂質の化学構造の決定や、マウスをモデル型に使った糖鎖の遺伝学的な発現制御などの研究を行いました。1983年に東京都臨床医学総合研究所に研究員として移り、その後1999年からは理化学研究所に移り、アルツハイマー病 β セクレターゼの研究を開始いたしました。アルツハイマー病の脳では、アミロイド班が認められますが、これは病原ペプチド ($A\beta$) が沈着したものです。 $A\beta$ ペプチドはアミロイド前駆体タンパク質 (APP) が最初に β セクレターゼで切断され、その後更に γ セクレターゼによって切断されて生じる40~42アミノ酸からなるペプチドです。アルツハイマー病の患者脳では β セクレターゼ活性の上昇が報告されており、これがアルツハイマー病の一義的な原因であると考えられております。私たちは β セクレターゼがシアル酸転移酵素を生理的な基質として切断することを世界に先駆けて見いだしました。また、この切断が糖鎖のシアル酸化の調節機構として重要であることも見いだしております。この現象を臨床に応用しようと考え、ヒト脳脊髄液における β セクレターゼ産物の定量や糖タンパク質の変化を解析する研究を行っております。今後これらの研究を臨床応用も含めて発展させてゆきたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

医学部 内科学第二講座
教授 大平 弘正

このたび、内科学第二講座の教授に就任いたしました。誠に微力ではございますが、鋭意努力し本学発展のために励んで行きたいと思っております。

昭和62年に本学を卒業後、臨床医を目指し内科学第二講座に入局いたしました。県内一般病院での研修後、平成3年から2年間久留米大学へ国内留学し、以後、肝臓病学を中心として臨床および基礎研究を行って参りました。特に自己免疫性肝疾患の病態解明や治療開発には興味を持ち、現在も主たる研究テーマとして活動しております。

大学病院における診療では、医療安全を第一に高度医療、最先端の医療を常に提供できる体制を備え、根底には基本的な医療を提供し、臓器に特化せず全身を把握して診断・治療を行うことが重要です。全身を診るという基本姿勢の重要性を学生教育の時点から教えていきたいと思っております。また、当該科では医療費助成対象の特定疾患45疾患のうち16疾患（消化器系5疾患）の診療を担当しており、これら難病疾患診療においては今後も県内の中心的な役割を担っていかねばならないと考えております。一方、研究においてはこれまで、個人研究が多く、本来臨床医学講座が

重点を置くべき臨床研究が欧米と比較し疎かとなっていると考えます。基礎系講座の先生方にもご指導を頂きながら、独創性が高く国際的にも評価される臨床研究を目指したいと思いをします。

今後、医局員が夢を持って日々の診療・研究に携われる発展的で協調性のある講座運営をしていきたいと考えております。どうぞ宜しくご指導お願いいたします。



目指せ 明るく・楽しい神経内科

医学部 神経内科学講座
教授 宇川 義 一

平成19年5月1日をもちまして、神経内科学講座の教授に就任いたしました宇川と申します。自己紹介をまず述べ、その後抱負などを述べたいと思いをします。

私は、東京生まれの東京育ちです。昭和53年に東大を卒業した後、自治医大でのジュニアレジデントを終了し、東京に戻り神経内科に入局しました。その後留学以外は東大に所属して今日まで来ました。そして今回ご縁があり、福島県立医大にお世話になることになりました。山本先生が築かれた伝統の臨床重視の神経内科を引き継いでいきたいと思っております。

楽しく・明るい神経内科 治らない・暗い神経内科というイメージも強い中、脳血管障害・パーキンソン病・てんかんなどの神経内科疾患は治療が可能であり、きちんとした知識によりコントロールする必要があります。このために神経内科医が必要であるという認識を広めたいと考えています。

どんな神経内科疾患にも対処できる医療を 最先端の医療をどのような疾患にも提供できることを大学の使命として行っていきたいと考えております。疾患に好き嫌いが無い医療を目指そうと考えます。これは、前教授の山本先生の方針でもあります。

学校は教える所、教わる所でなくて、自分で勉強するところ 教育はチューブフィーディングだけでは駄目で、自分自身が問題を見つける力を身につけるためのものと考えています。いい大人が人からやれと言われて勉強するのは悲しい事です。自分で疑問を持って勉強するのが本来であり、教育は自分でアタックするための材料を提供するのが主な使命であると私は考えています。

治療を目指した研究を 私は、磁気刺激と言う手法を用いて、人の頭を外から刺激して変化を見る研究をこれまで行ってきました。今後はその応用として、内服薬で治療しにくい疾患を磁気刺激で治療する事を目指す研究を進めたいと思いをします。これが成功すれば、治る・楽しい神経内科の実現ができると考えます。

偉そうなことを言いましたが、学生諸君・多くの同僚の医師の方々と楽しく仕事をしたいと思いをします。皆さんよろしく御願いをします。



教授就任のごあいさつ

医学部 小児科学講座
教授 細矢 光亮

平成19年3月1日付けで小児科学講座を担当させていただくことになりました細矢光亮（ほそや みつあき）です。

昭和58年に福島県立医科大学を卒業し、そのまま鈴木仁前教授が主宰されておられた小児科学講座に入局いたしました。3年間の臨床研修の後、福島県立医科大学細菌学講座（現微生物学講座）にて、茂田士郎前教授の指導のもと、小児ウイルス感染症の治療法開発に関する研究をテーマとして、しばらく研究に専念させていただきました。小児科学講座に戻りましてからは、臨床では主に重症感染症と神経・筋疾患を担当し、研究では中枢神経系感染症をテーマとして、急性髄膜炎・脳炎の病原診断、インフルエンザ脳症の病態解明、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）に対する治療法の開発などの研究を続けて参りました。このように、初期研修や海外留学を除きますと、ほぼ全期間を本学にお世話になっております。

現在、福島県のみならず、全国的にみましても、地域小児医療を担う勤務小児科医が不足する危機的な状況にありますが、まずは足元を固めることが大切ですので、新生児・未熟児疾患、循環器疾患、血液・悪性腫瘍疾患、神経疾患、感染症、腎・代謝・アレルギー疾患などのそれぞれの診療分野の充実を図り、県内小児医療の拠り所となる、臨床に強い教室作りを目指したいと思いをします。そして、あせらず、ゆっくり、着実に、臨床および研究の両面において優れた人材を育成し、県内小児医療と福島県立医科大学のさらなる発展に貢献したいと思いをしますので、ご支援のほどよろしく御願いを申し上げます。



教授就任のご挨拶

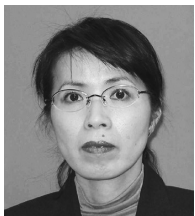
医学部 皮膚科学講座
教授 山本 俊 幸

本年3月1日より皮膚科学講座を担当させて頂いております。私は神奈川県川崎市の出身で、昭和63年に東京医科歯科大学を卒業後、皮膚科に入局しました。東京以外では埼玉県、群馬県、そして茨城県の基幹病院で研鑽を積みま

した。大学では、乾癬という自己免疫疾患の発症における黄色ブドウ球菌由来スーパー抗原の関与と特定のT細胞レセプターV β レパートリーの発現解析、乾癬の治療、膠原病の皮膚症状の発症機序、強皮症モデルマウスの確立と皮膚硬化発症機構の解析、またドイツ留学中には線維化におけるケモカイン（特にMCP-1）の役割などに取組んできました。その後異動した東京医大では、試験問題作成委員の幹事、カリキュラム委員、国家試験対策など教育に力を入れました。今後は、自分が教わってきたこと、自分で学び取ってきたものを若い先生たちに継承していくのが自分の役割の一つと考えています。

臨床に関しては、ただ漫然とやるのではなく、問題意識を持って考える診療を指導していきたいと思っています。県内唯一の大学ですので、偏りなくあらゆる分野に対処できるよう努力します。研究に関しては、強皮症を始めとする膠原病、ベーチェット病、皮膚疾患を引き起こすウイルス、痒みのメカニズムと抗アレルギー剤の抑制機序、創傷治癒についての研究などに興味を持っています。それ以外でも、皮膚科が関与する分野で興味をお持ちの先生がいらっしゃいましたら遠慮なく声をかけてください。学内の各部門の先生方にご協力頂き、一緒に臨床研究ができれば嬉しいです。学生教育に関しては、皮膚科学が持つ難解なイメージを取り除き、わかりやすく皮膚科学の面白さを伝えていきたいと思えます。当大学は静かな恵まれた環境にありますので、学生諸君や研修医の先生は落ち着いて勉学に励むことができると思えます。

さて、皮膚科に限らず地域を取り巻く共通の悩みとして医療過疎問題があります。私の大きな使命は、優秀な皮膚科医を育成することと、県内の皮膚科医療サービスを少しでも充実させて地域医療に貢献することにあると考えますが、マンパワーの問題もあり、少し長期的な視野に立って考えていかざるを得ない状況です。今後共諸先生方の一層のご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

看護学部 基礎看護学部門
教授 横田 素美

この4月より看護学部基礎看護学部門に赴任致しました横田でございます。前任校は信州大学医学部保健学科看護学専攻でございます。信州大学でも基礎看護学に所属しており、主として感染制御看護学やリスクマネジメント論、チーム医療などを担当しておりました。私は遡ること3年前、平成13年4月から平成16年3月までの期間も、本学看護学部の基礎看護学領域（当時）で教育・研究に携わって

おりました。その時も貴重な経験をさせて頂いたと感謝しております。今回の赴任では、「看護学の基本」をはじめ本学部を志した学生と共に看護について熟考できる科目を受け持たせて頂き、大変やりがいを感じております。再び本学部で教育・研究に携わる機会を得て、この3年間の経験を生かしながら質の高い看護職者育成に取り組んでいきたい所存です。また、目下取り組んでおります研究テーマは、「がん患者の在宅医療を支えるヘルスケアチームの構築とそこでの看護職者の役割」です。これから欠くことができないチーム医療のあり方を探求していきたいと考えております。宜しくお願い致します。



教授就任のご挨拶

看護学部 家族看護学部門
教授 太田 操

この度、看護学部家族看護学部門の教授に就任致しました。

専門領域は、母性看護学・助産学・生命倫理学です。母性看護学は、妊産褥婦および新生児を対象とした看護を展開するというイメージが強いと思えますが、女性のライフサイクル全般に及ぶ健康分野にも関わる領域です。他方、助産学の対象も、母性看護学のそれと大きくは変わりませんが、ケアの内容という点では前者と大きく異なってきます。後者は「性と生殖」に関わる度合いが深くなっている点に特徴があります。具体的には、助産師独自の助産診断・技術に基づいてケアを展開すると言う点です。ご存じのように助産師は、現在、社会問題としても注目されている分野です。産科医の減少や産科病棟の閉鎖に伴い、「出産難民」という用語まで登場しました。妊娠・分娩は本来、病気ではありませんので、正常な経過を迎えることが予測される妊産婦のケアに関しては、もっと助産師が主導的に関わることが可能と考えております。また、このことへの社会的なニーズも高く、妊産婦にとって満足度の高いケアの提供が助産師にはできると自負しております。そのための自立した助産師の原点は教育であり、大学における助産師教育の担う役割は小さくありません。それゆえ、私が大切にしたい課題は「助産師の専門職としての自立」です。さらに地域の助産師の皆様とも協力して、教育と臨床現場とのより良きパートナーシップを築いていくことも重要と考えております。これから益々、学生の教育並びに県内の助産ケアの質の向上に寄与できるよう尽力させて頂きたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



看護学部教授に就任して

看護学部 ケアシステム開発部門
教授 黒田 眞理子

看護学部は今年で10周年、皆様方のおかげで飛躍の年を迎えております。私も福島に来て10年、この10年を振り返ってみますと、最初の1年は福島県看護協会で見守り研修を担当し、看護学部開設準備室主催のアメリカ看護事情視察の旅にも参加させていただきましたことが思い出深く、学部就任後も看護管理者研修などに関わりを続けた経験は、福島県内の看護者との教育や研究での連携に役立っております。

看護学部開設と同時にケアシステム開発部門環境・保健学領域に着任したときは、加藤教授とともに地域看護学領域と協働して教育・研究にあたり、1年後領域メンバーが1人増え、その後名前が環境・保健/看護管理学領域となり看護管理学も担当することになりました。平成18年の組織改編により領域を廃止しケアシステム開発部門所属となっても産業保健、地域看護、看護管理学の教育・研究にあっております。専門は産業看護学であり、研究としてはリラクゼーション方法（特に疲労・睡眠障害の改善）に関することなど、地域看護（行政・産業）に関することをテーマとしております。

平成19年4月1日付で教授に就任して以来、大学院教育にも関わることとなり、学部学生に加えて大学院生とともに福島県の看護に貢献すべく研鑽を積んでいきたいと考えております。特に福島県内の産業看護職のネットワークを構築し、産業看護の質の向上をめざしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

諸規程改正

■ 平成19年2月から5月までの諸規程の制定改廃関係

- 1 学校教育法の改正に伴い、教員の職位が変更になったことから、関係する規程の改正がありました。
「福島県立医科大学附属病院における職員等のネームプレートに関する規程」の一部改正（平成19年2月16日制定・平成19年4月1日施行）
「公立大学法人福島県立医科大学事務決裁規程」の一部改正（平成19年2月8日制定・平成19年4月1日施行）
「福島県立医科大学医学部教員の採用及び昇任選考規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学看護学部教員適任者選考規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学博士研究員に関する規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学大学院医学研究科委員会規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学大学院医学研究科運営検討委員会規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学大学院医学研究科履修規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学大学院研究生に関する規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学大学院看護学研究科委員会規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学大学院看護学研究科履修規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学看護学部学務委員会規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学看護学部入学試験委員会規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学医学部長選考規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学医学部臨床教授等の称号付与に関する規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「福島県立医科大学名誉教授称号授与規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学職員兼業規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学服務規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

2 「福島県立医科大学医学部履修規程」の一部改正（平成19年3月2日制定・平成19年4月1日施行）

第5学年の進級判定に「医療入門Ⅱ」の授業科目を追加するなど、履修科目の追加や時間数の変更等を行いました。

3 「福島県立医科大学附属病院教授選考規程」の制定（平成19年3月1日制定・平成19年4月1日施行）

福島県立医科大学附属病院における診療科部長、部長又は所長として診療等に従事する教職員に対する称号の付与に関し、必要な事項等を定めました。

4 「公立大学法人福島県立医科大学職員安全衛生管理規程」の一部改正（平成19年3月9日制定・平成19年4月1日施行）

第13条に規定された特別健康診断及び成人病予防健康診断の名称を労働安全衛生法に準じ、特殊健康診断及び一般健康診断に改めるとともに、法定外検診である胃がん検診及び大腸がん検診を一般健康診断とは、別個に規定しました。

5 「公立大学法人福島県立医科大学公印規程」の一部改

正（平成19年2月22日制定・施行）

縦書き表彰状用の公印を新たに定め、関係する別表等を整理しました。

6 「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正（平成19年3月28日制定・平成19年4月1日施行）

厚生労働省からの先進医療に係る届出の受理通知に基づき、新たに超音波骨折治療法に係る料金を定めるとともに、有形固定資産貸付料の現行水準の維持を図るため、算定係数の変更等を行いました。

7 「福島県立医科大学附属病院安全管理部業務規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

組織定数の見直しに伴い、安全管理部から医療安全管理部へ組織名称の変更を行いました。

8 「福島県立医科大学動物実験規程」の制定（平成19年4月1日制定・平成20年1月1日施行）

「動物愛護及び管理に関する法律」が改正されたことに伴い、文部科学省や厚生労働省が制定した基本指針や学術会議が制定したガイドライン等を受け、本学における新たな動物実験の実施に向けた方針等を定めました。

9 「公立大学法人福島県立医科大学職員就業規則」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員就業規則」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

休息時間の廃止及び勤務時間の変更（交替制勤務を取っている所属及びそれに関係のある所属を除く）に伴う改正及び教員の職位の改正に伴う訂正等を行いました。

10 「福島県立医科大学看護学部の海外出張に関する規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

学校教育法の改正に伴い、教員の職位が変更になったことに加え、外国旅行命令の決裁権者を事務決裁規程との関係から、理事長に変更しました。

11 「福島県立医科大学医学部の海外出張に関する規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

学校教育法の改正に伴い、教員の職位が変更になったことに加え、外国旅行命令の決裁権者を事務決裁規程との関係から、理事長に変更しました。

12 「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

平成18年10月5日に行われた県人事委員会の給与勧告等に基づき、県の「職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」が2月議会で可決されたことから、県の条例に準じて、法人の職員給与規程で定められている給料の特別調整額の支給額等の改正を行いました。

13 「公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員給与規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則」の

一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学後期研修医就業規則」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

県においてガソリン価格の高騰等により通勤手当額の改正が行われたため、県に準じて交通機関等利用職員の支給限度額を1箇月当たり55,000円から58,000円に3,000円引き上げるとともに、自動車等交通用具使用職員の片道の使用距離に応じた手当日額を10円から166円の間で引き上げました。

14 「公立大学法人福島県立医科大学旅費規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

県において、着後手当の加算額の上限額の改正が行われたため、旅費規程の着後手当の加算額の上限額を県に準じて改正（上限額を46,000円から49,000円に引き上げ）しました。

15 「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

県において、知事等の特別職の職員について、厳しい県財政状況から、減額措置の延長と新たに減額幅を設けた給与特別条例が制定されたことから、本法人においても、現行の基本給を減額する割合を100分の7から100分の10まで引き上げるとともに、減額措置の期間を平成19年4月1日から21年3月31日までとしました。

16 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

学校教育法の改正に伴い、教員の職位が変更になったことに加え、学内組織名称の変更（生理学第一講座を細胞統合生理学講座、生理学第二講座を神経生理学講座、衛生学講座を衛生学・予防医学講座、呼吸器科学講座を呼吸器内科学講座へ、安全管理部を医療安全管理部へ、呼吸器科を呼吸器内科へ変更）及び組織の新設（リハビリテーションセンター、救命救急センター、臨床腫瘍センター、医療支援部の新設）に伴う改正を行いました。

17 「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正（平成19年4月1日制定・施行）

附属病院中央部門に新たな組織を整備するとともに、病院内組織の名称を変更するため、所要の改正を行いました。（詳細は、上記組織及び運営規程の一部改正のとおりに）

18 「福島県立医科大学部局長等選考規程」の一部改正（平成19年5月16日制定・施行）

部局長等選考規程のなかに事務局長が含まれていなかったことから、事務局長を含めることとし、他の規程との整合性が図れるよう改正しました。

19 「公立大学法人福島県立医科大学服務規程」の一部改正（平成19年5月1日制定・施行）

職員の勤務時間について、県に準じ、休息時間を廃止

したことに伴い、休憩時間の変更や早出遅出勤務の手続きについて定めました。

20 「公立大学法人福島県立医科大学職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」の一部改正（平成19年5月1日制定・施行）

休憩時間について特例を設けるとともに、育児又は介護を行う職員の時間外勤務の制限について規定を設け、又、早出遅出勤務についての規定も設けました。

役員会・経営審議会・ 教育研究審議会・医学部 教授会・看護学部教授会

■ 役員会

【平成19年3月28日 平成18年度第25回役員会】

- 「倫理委員会」委員の辞任に伴う新委員の選任次のおり理事長が選任した旨報告があった。
須佐学外委員

任期は、平成19年4月1日から平成20年7月31日まで。

【平成19年4月11日 平成19年度第1回役員会】

- 「組換え DNA 実験安全委員会」委員の選任次のおり学長が選任した旨報告があった。

錫谷教授（医：微生物学講座）

和田教授（医：細胞科学研究部門）

和栗教授（医：解剖・組織学講座）

遠藤准教授（医：免疫学講座）

片平准教授（医：実験動物研究施設）

中川講師（医：人文社会科学講座）

佐藤(由)教授（医：大学健康管理センター）

本多教授（看：生命科学部門）

小林(剛)助教（医：生体機能研究部門）

任期は、平成19年4月1日から平成21年3月31日まで。

■ 経営審議会

【平成19年3月23日 第5回経営審議会】

- 平成19年度予算（案）
平成19年度予算（案）が承認された。
- 公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正
先進医療に係る料金の追加、有形固定資産貸付料の算定基礎と算定係数の変更及び文献複写料の内容整備が承認された。
- 公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程の一部改正
県の給与特例条例の改正に準じて、役員報酬の減額措置を行うことが承認された。

- 公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則等の一部改正

県の通勤手当額の改正に準じて、診療医等の通勤手当額を引き上げることが承認された。

- 公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の一部改正

学校教育法の改正に伴う大学教員の職名及び職務内容の改正と、学内組織名称の変更及び組織の新設による改正が承認された。

- 福島県立医科大学附属病院規程の一部改正

附属病院の組織体制の整備を図るため、リハビリテーションセンター、救命救急センター、臨床腫瘍センター、医療支援部の設置及び安全管理部から医療安全管理部への名称変更が承認された。

- 平成19年度の年度計画（案）

大学院医学研究科修士課程の設置、医学部の入学定員増、救命救急センターの設置等を盛り込んだ平成19年度の年度計画（案）が承認された。

■ 教育研究審議会

【平成19年3月23日 第7回教育研究審議会】

- 名誉教授称号の授与

本年3月31日付けで定年退任される丸山幸夫氏、児玉南海雄氏、大下静香氏への名誉教授授与が決定された。

- 福島県立医科大学動物実験規程の制定

動物実験委員会（委員長：挾間教授）が作成した原案が提示され、原案のおり決定された。なお、実際に運用に携わる新たな動物実験委員会等の規程案の策定を前回同様、動物実験委員会に依頼することとされた。

■ 医学部教授会

【平成19年3月19日定例教授会】

- 組換え DNA 実験安全委員会委員の推薦

次のおり推薦され、その後、理事長から任命された。
自然科学関係から

和栗教授（解剖・組織学講座）

錫谷教授（微生物学講座）

和田教授（細胞科学研究部門）

遠藤助教（免疫学講座）

片平助教（実験動物研究施設）

人文社会科学関係から

中川講師（人文社会科学講座）

予防医学関係から

佐藤(由)教授（大学健康管理センター）

任期は、平成19年4月1日から2年間

- 医学部教務委員会委員の一部改選

次のおり選任された。

挟間教授（生理学第一講座）

福島教授（衛生学講座）

横山教授（心臓血管外科学講座）

大森教授（耳鼻咽喉科学講座）

宍戸教授（放射線医学講座）

落合教授（生物学講座）

任期は、平成19年4月1日から2年間

・医学部入試委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

和栗教授（解剖・組織学講座）

安村教授（公衆衛生学講座）

和田教授（細胞科学研究部門）

細矢教授（小児科学講座）

村川教授（麻酔科学講座）

藤野教授（人文社会科学講座）

落合教授（生物学講座）

小林(旬)教授（物理学講座）

棟方教授（呼吸器科学講座）【健康診断担当】

任期は、平成19年4月1日から2年間（ただし、健康診断担当の任期は1年間）

■ 看護学部教授会

【平成19年3月20日定例教授会】

・組換え DNA 実験安全委員会委員の推薦

次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。

本多教授（生命科学部門）

任期は、平成19年4月1日から2年間

【平成19年4月3日臨時教授会】

・看護学部研究予算委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

横田教授（基礎看護学部門）

太田教授（家族看護学部門）

任期は、平成20年3月31日まで。

・看護学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員

の一部改選

次のとおり選任された。

島山准教授（家族看護学部門）

任期は、平成20年3月31日まで。

・看護学部広報委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

横田教授（基礎看護学部門）

任期は、平成20年3月31日まで。

・看護学部公開講座委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

黒田教授（ケアシステム開発部門）

任期は、平成20年3月31日まで。

【平成19年5月15日定例教授会】

・看護学部図書委員会委員の選任

次のとおり選任された。

本多教授（生命科学部門）

横田教授（基礎看護学部門）

伊藤講師（生態看護学部門）

任期は、平成20年3月31日まで。

雑 報

■ 倫理委員会

【平成19年1月12日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの（新規申請のみ）】

No.492 統合失調症の心理社会的治療—介入方法の開発—
（申請者：神経精神医学講座 教授 丹羽真一）

No.534 頸部愁訴評価ツールの策定
（申請者：整形外科科学講座 学内講師 大谷晃司）

No.541 パノラマ画像作成技術による内視鏡画像の解析技術の開発
（申請者：呼吸器科学講座 教授 棟方 充）

No.542 アレディア（パミドロン酸二ナトリウム）
（申請者：総合周産期母子医療センター
教授 佐藤 章）

No.543 東北6県における急性肺障害患者調査
（申請者：麻酔科学講座 教授 村川雅洋）

No.544 うつ病におけるミルナシプラン治療反応性とノルアドレナリントランスポーター遺伝子多型、血漿モノアミン代謝産物濃度との関連
（申請者：神経精神医学講座 教授 丹羽真一）

No.545 食道表在癌に対するアルゴンプラズマ凝固の効果判定
（申請者：外科学第一講座 教授 後藤満一）

No.546 若年者における新生血管黄斑症および中心性漿液性網脈絡膜症を対象とした光線力学的療法の有効性を検討する探索的臨床試験
（申請者：眼科学講座 教授 飯田知弘）

No.547 網膜静脈分枝閉塞による黄斑浮腫に対する網膜光凝固と硝子体手術の治療効果の比較
（申請者：眼科学講座 教授 飯田知弘）

No.548 虚血性心疾患患者の周術期心筋保護における短時間作用型β遮断薬の効果について—パイロットスタディー—
（申請者：心臓血管外科学講座 教授 横山 斉）

No.549 Stage II 大腸癌における分子生物学・病理学的マーカーによる再発 high-risk 群とフッ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究
（申請者：外科学第二講座 教授 竹之下誠一）

No.550 Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する

<p>る研究 第Ⅲ相試験 (申請者：外科学第二講座 教授 竹之下誠一)</p> <p>No.551 平成16年10月新潟中越地震による被災者の健康問題と避難所、仮設住宅における生活環境調査 (申請者：衛生学講座 教授 福島哲仁)</p> <p>【平成19年2月2日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの(新規申請のみ)】</p> <p>No.552 進行・再発胃癌に対する TS-1 単独療法/ TS-1+レンチナン併用療法による第Ⅲ相試験 (申請者：外科学第一講座 教授 後藤満一)</p> <p>No.553 プレパレーション導入・定着に向けたアクションリサーチ—多施設協同システムの検討— (申請者：生態看護学部門 助教授 鈴木千衣)</p> <p>No.554 標準療法不応肺癌(非小細胞肺癌)に対する新規腫瘍関連抗原遺伝子由来 HLA-A24拘束性エピトープペプチドを用いた腫瘍特異的ワクチン療法(第Ⅰ相臨床試験) (申請者：外科学第一講座 教授 後藤満一)</p> <p>No.555 虚血性脳卒中患者における血管イベントの発症率に関する前向き観察研究(EVEREST) (申請者：神経内科学講座 助教授 遠藤一博)</p> <p>【平成19年3月2日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの(新規申請のみ)】</p> <p>No.556-1 Treatment Protocol of the Second International HLH Study: HLH-2004 (申請者：小児科学講座 講師 菊田 敦)</p> <p>No.556-2 高リスク神経芽腫に対する標準的集学的治療の後期第Ⅱ相臨床試験 (申請者：小児科学講座 講師 菊田 敦)</p> <p>No.556-3 AML-05および AML-P05プロトコールにおけるキメラ遺伝子の定量による微小残存病変の臨床的意義に関する研究 (申請者：小児科学講座 講師 菊田 敦)</p> <p>No.556-4 小児急性骨髄性白血病(AML)に対する多施設共同後期第Ⅱ相臨床試験 (申請者：小児科学講座 講師 菊田 敦)</p> <p>No.556-5 小児領域(小児血液・免疫異常等)における真菌感染症に対するボリコナゾール(ブイフェンド)の有用性の検討 (申請者：小児科学講座 講師 菊田 敦)</p> <p>No.557 進行再発膵癌に対する腫瘍新生血管を標的としたエピトープペプチドと gemcitabine 併用による抗癌剤併用がんワクチン療法(第Ⅰ相臨床試験) (申請者：外科学第一講座 教授 後藤満一)</p> <p>No.559 新生児及び小児重症呼吸不全及び肺高血圧症に対する一酸化窒素(NO)吸入療法 (申請者：総合周産期母子医療センター 教授 佐藤 章)</p> <p>No.560 切除不能進行再発肝癌に対する腫瘍新生血管を標</p>	<p>的としたエピトープペプチドがんワクチン療法(第Ⅰ相臨床試験) (申請者：外科学第一講座 教授 後藤満一)</p> <p>編集発行 公立大学法人福島県立医科大学 事務局企画グループ 〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地 TEL 024(547)1013 FAX 024(547)1991</p>
---	---